

6. 親子のコミュニケーション編③＜子どもを知る＞

① 子どもの気持ちに近づくために…

《ねらい》

○自分が親から言われた言葉や日ごろのわが子への言葉かけをふりかえり、子どもの気持ちを考えて言葉かけを考える。

《準備物》

- ファシリテーター：ワークシート
- 参加者：筆記用具

	時間	主な活動	発言	留意点
導入 (10)		1. 学習のねらい 子どもは、私たちの言葉をどのように感じているのでしょうか？今日は子どもの頃、言われた言葉を思い出しながら、子どもがうれしくなったり、やる気になったりする言葉について考えていきましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
		2. アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介	アイスブレイクの例参照	・4人程度のグループに分ける。
		3. ルールとマナーの確認	P.4 参照	
展開 (35)	5	4. ワークシートに記入する。 ・子どもを叱るときの状況や言葉 (ワーク1)	4. 日ごろ、お子さんを叱っているときはどんな時ですか。その状況や言っている言葉を思い出して ワーク1 に書き出してみましょう。	・「早くしなさい」など具体的な言葉を書くよう伝える。
	5	5. グループで話し合う。 ・子どもが安心する言葉 (ワーク2)	5. 子どもがうれしくなったり、やる気になったりするような言葉を考えて、 ワーク2 に記入しましょう。	
	8	6. 2人組で体験する。 ・子どもを叱る言葉 ・子どもが安心する言葉	6. 2人組で叱る言葉と安心する言葉を体験してみましょう。	・親と子の役割分担を確認し、ワークシートを交換して体験する。
	11	7. グループで話し合う。	7. 言われてどうでしたか。感想を話し合しましょう。子どもの心が安心する、落ち着いた言葉を考えてみましょう。	・4人グループで話し合う。 ・言い方にも注目させる。
	6	8. グループごとに発表する。	8. どのような意見が出てきましたか。グループの意見を紹介してください。	・全グループ又は抽出グループで発表する。
まとめ (15)	5	9. ふりかえり	9. このワークをふりかえって、気づいたこと・参考になったことをまとめてみましょう。	
	10	10. まとめ いかがでしたか？言葉にも嫌な気持ちになる言葉と嬉しい気持ちになる言葉がありましたね。子どもたちには、やる気が出て元気になる、心がうれしくなる言葉をたくさんかけていきたいものです。		

① 子どもの気持ちに近づくために…

私たち保護者は、子どもの心身の健やかな成長を願って、「子どものためによかれと思って」いろいろな言葉をかけています。そんな言葉を子どもはどのように聞いているのでしょうか？あなたが子どもの頃、親から言われてうれしかった言葉や嫌だった言葉を思い出してみましょう。

そして、今あなたが子どもに使っている言葉で、「きっと子どもは嫌だろうなあ」と思われるものを書き出してみましょう。

ワーク1

あなたが叱るときはどんな時ですか？
どんな言葉を使っていますか？

<場面>



<具体的な言葉>

ワーク2

子どもがうれしく
なったり、やる気
になったりするよ
うな言葉に変えて
みましょう。

ふりかえり



6. 親子のコミュニケーション編③＜子どもを知る＞

② 子どもの「大切なもの」を見つけよう

《ねらい》

- 自分自身が子どもだった頃に大切にしていたもの・時間・言葉を思い出すことで、子どもの気持ちを理解し、親として適切な関わり方をしようとする意識を高める。

《準備物》

- ファシリテーター：ワークシート
- 参加者：筆記用具

	時間	主な活動	発言	留意点
導入 (10)		1. 学習のねらい 普段はつい大人の目で子どもを見てしまいがちですが、子どもの気持ちになって見てみると、いつもと違う見方ができるかもしれません。今日は子どもの気持ちについて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。その前に、ちょっとリラックスするために、簡単なゲームをしましょう。		
		2. アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介	アイスブレイクの例参照	・4人程度のグループに分ける。
		3. ルールとマナーの確認	P.4 参照	
展開 (35)	6	4. ワークシートに記入する。 ・子どもの頃大切にしていたもの (ワーク1)	4. あなたが子どもの頃に大切にしていたものは何ですか。その理由も思い出して ワーク1 に書き出しましょう。	・楽しかった時間や言われた言葉なども入る。 例：旅行にいったこと、ほめられたことなど
	7	5. グループで紹介し合う。	5. あなたの大切にしていたものをグループで紹介しましょう。そのときの気持ちやエピソードもあれば紹介してください。	
	7	6. ワークシートに記入する。 ・わが子の「大切なもの」 (ワーク2)	6. お子さんの大切にしているものは何ですか。お子さんの様子や言葉を思い出して ワーク2 に書き出してみましょう。	・時間があれば抽出グループの発表や個人発表などしてもよい。
	15	7. グループで話し合う。 ・子どもにとって「大切なもの」 (ワーク3)	7. お子さんの「大切なもの」を紹介しながら、子どもにとって「大切なもの」についてグループで話し合い ワーク3 にまとめましょう。	
まとめ (15)	5	8. ふりかえり	8. このワークをふりかえって、気づいたことをワークシートに書いてください。	
	10	9. まとめ 大切なものの形は違ってても今も昔も子どもの感性は変わりません。子どもが感じる喜びや楽しさ、嬉しさを感じることで子どもの世界を理解することにつながっていきます。おうちの方の大切だったものについて伝えながら、「大切なもの」について子どもと話し合ってみてください。		

② 子どもの「大切なもの」を見つけよう

大人になることは、悲しいことに、自分が子どもだった頃の気持ちを忘れてしまうことだとも言われます。そこで、今日は子どもの頃にタイムスリップし、自分が子どもの頃、大切にしていた宝物を思い出してみましょう。ひょっとすると、子どもにとって大切なものは、今も昔も大差ないかも知れませんね。

今日、おうちに帰って、自分が「大切にしていたもの」わが子の「大切なもの」について、親子で話し合ってみてはいかがでしょうか。子どもの心が見えるかも知れません。

ワーク1

あなたが子どもの頃に「大切にしていたもの」を思い出してみましょう。
(大切にしていたものは物だけでなく時間や言葉も含みます。)

大切にしていたもの	その理由

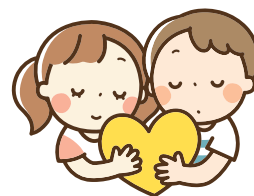
ワーク2

わが子の「大切なもの」を思い浮かべてみましょう。

ワーク3

子どもにとって「大切なもの」について話し合ってみましょう。

- ・
- ・
- ・



ふりかえり



6. 親子のコミュニケーション編③＜子どもを知る＞

③ 抱っこで感じる子どもの成長

《ねらい》

○子育ては親子が一緒に成長するものであるため、なかなか子どもの成長を客観的に感じられない。そこで子どもの身体の成長を実感することで、子どもの成長や子育てをふりかえる。

《準備物》

○ファシリテーター：ワークシート、3kgのおもり（主催者に依頼し用意してもらう。できればグループに1つずつあるとよい。）

○参加者：筆記用具

	時間	主な活動	発言	留意点
導入 (10)		1. 学習のねらい 今日は、お子さんが生まれた時の体重と同程度のおもりを用意しました。現在のお子さんの体重や重さを思い浮かべながら、その成長についてふりかえてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
		2. アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介 ・出生児の標準体重を体感	2. 出生児の標準体重（3kg）を体感してみましょう。	・自宅に帰ってからお子さんを抱っこし、生まれてからの成長を体感してもらう。
		3. ルールとマナーの確認	P.4 参照	
展開 (35)	7	4. ワークシートに記入する。 ・わが子の誕生時の体重とその時の気持ち (ワーク1)	4. わが子の誕生時の体重と、生まれた赤ちゃんを抱っこした時の気持ちを思い出して、 ワーク1 に書いてみましょう。	
	13	5. 感想をシートに記入する。 (ワーク2)	5. 今のわが子の体重と比べて子どもの成長について感じることを ワーク2 にまとめてみましょう。	・十分な時間を確保しようとするれば、おもりをグループ分準備する必要が出てくる。 ・わが子の体重を想像してもらう。
	15	6. グループで紹介し合う。	6. ワークシートに記入した内容を、皆さんで紹介し合いましょう。	
まとめ (15)	5	7. ふりかえり	7. このワークをふりかえて、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめてみましょう。	
	10	8. まとめ いかがだったでしょうか。生まれた時の体重を実感することによってわが子の成長を確認していただきました。伸び盛りの子どもは、身体の成長だけではなく、それにともなって心の成長もしています。いろいろな面から子どもの成長を実感していただき、わが子と自分の両方をほめてあげてください。		

③ 抱っこで感じる子どもの成長

日々の生活に追われていると、一緒に過ごしている子どもの成長をしみじみと感じる心の余裕がなかなかもてませんね。今日は、お子さんの身体の成長を実感するために、お子さんが生まれた時の体重と同程度のおもりを用意しました。それを抱いていただき、今のお子さんを抱っこしている時との違いをしっかりと感じてください。

これまでの子育てをふりかえて、今になって思うこと、これからどのように子どもと接していきたいかなど、過去・現在・未来をつないでみてください。

ワーク1

わが子の誕生時の体重を記入してください。
生まれたわが子を最初に抱っこした時の気持ちを思い出しましょう。

誕生時の体重は？（ ）g
最初に抱っこした時にどう感じましたか？



ワーク2

誕生時の体重を体感してみて思ったことを書いてください。
今の子どもの顔を思い浮かべ、子どもの成長について感じることを自由に書いてみましょう。

ふりかえり



鳥取県教育委員会
「子どもと向き合
うととりの子育
て・親育ち」